へ13
3877
13

兒雷也豪傑譚 第廿五篇
上
甘泉堂版

へ13
3877
13

宋沈俶諧史曰京城閭閻之區竊盜極多中畧以粉書我來也三字於門壁上故人漫亭鬼武子の綴りし物の本に強盜の名を自来也とせしハ彼諧史によれるなるべし其兒も名を洪兒雷也と雷を捕へし童の事にて云ふの名をかりもちゐるハ実に不穏の至なりし美図恒太々一世の手柄といふべし是書の售るゝハ筆寫揮毫の雷にぞくれ也ど窮まりなき電光の閃くぞその甘泉の筆を輝かせり前後後集を編續ども天雷の輝粉り多くして雲を蹴雷獣のたちがごとき所為をなしぬれとも須臾にして園に定きの侭を公日なつかりの繋り僅に息せる小鮮の鬚為し

嘉永甲寅王正月

柳下亭種員誌

種員

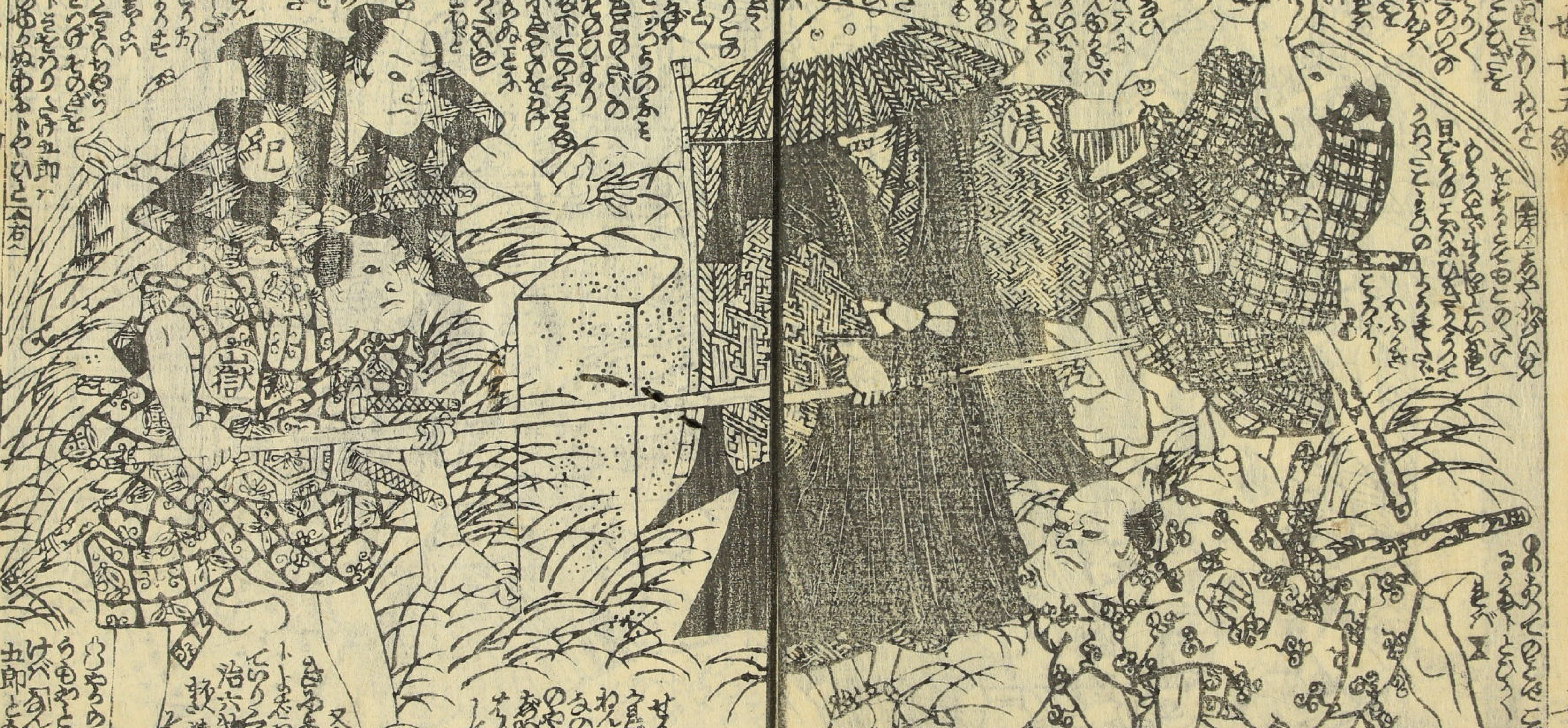
狂句
柳煙亭 種久
犬懸禅秀の臣
鮃淵現藤太
婢女
於陸
浪士
望月右内
處女白露
奉
巳巳巳巳

狂句　大入もちるか夕顔の下すゞみ
柳雨亭種安
駿州府中の旅舎富士屋佐五右エ門
鱗形の刀剱
悪漢我良八
浪士望月右内

狂句 何ぞるつまんよろくきらけ温石
翠松園 種春
児雷也
弥勒町の 阿曽比 岸川
狂句 鉢の木れ灰のる袖をうちそらひ
柳豊亭 種年

甲州黒駒へ帰るところ

[illegible]



[illegible]

堅六が昔語て宮の社家のむすめと忍びあひの形

嘉永八乙卯新板目録

假名反古 一休草紙　七編 八編 九編 出板
柳下亭種員作
一雄齋國輝画

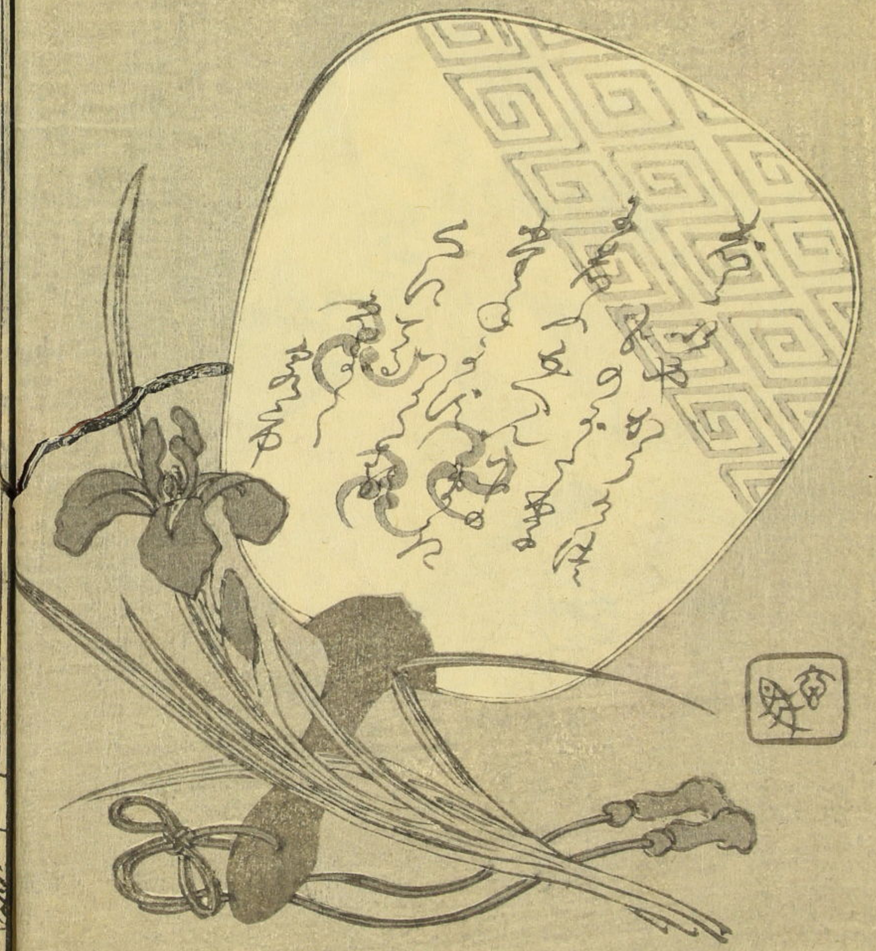
女郎花五色石臺　七編 八編 九編
同作
同画

踊形容花競
編者 柳水亭種清
画工 一陽齋豊國
初編より十編まで當年出板

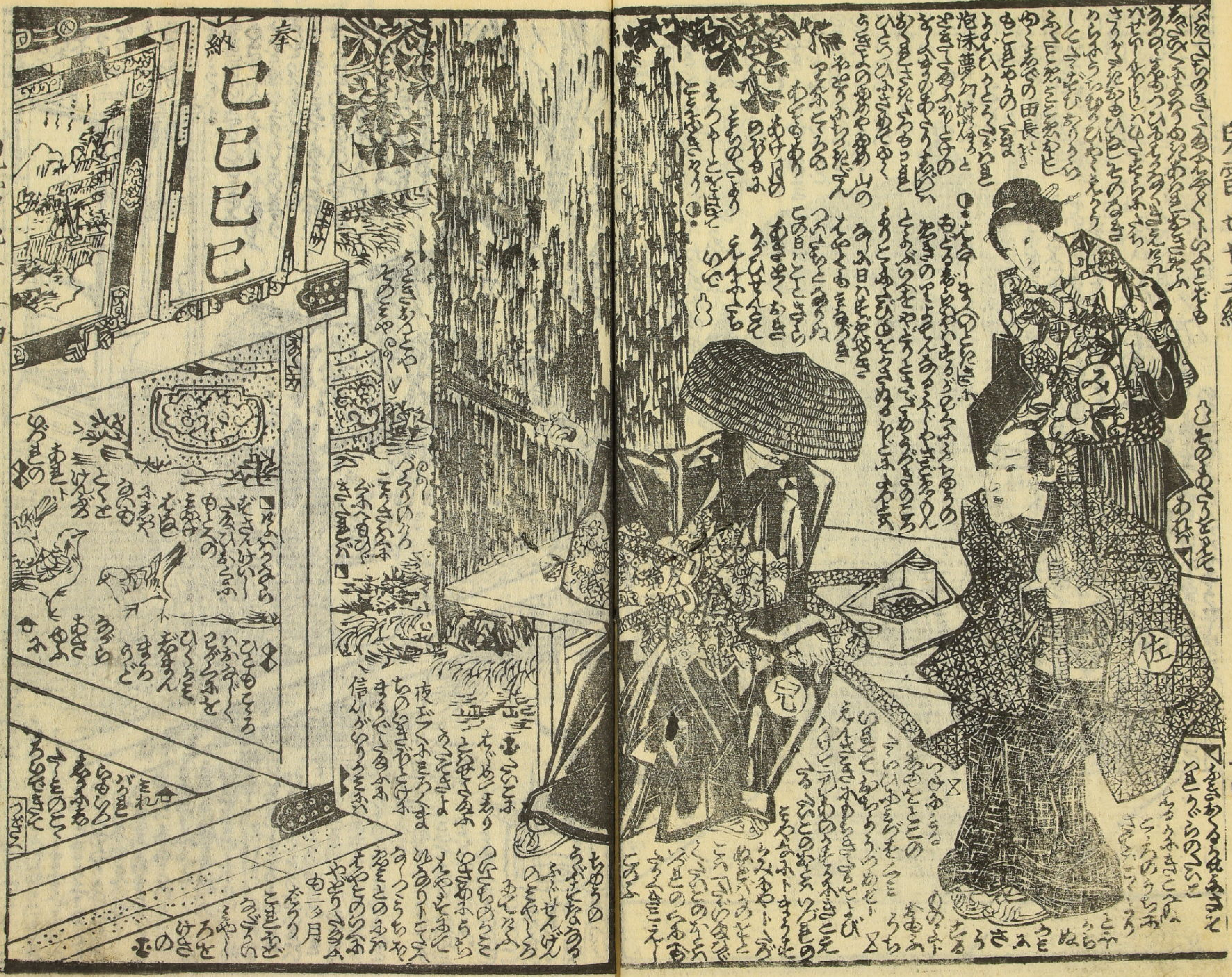
さうりう豊國が画ける多くの錦画を種清がゑらみとしてちかき頃の黒表紙に似よりの品のそれぞれ三都のうちのあづま錦画ぐさのよしあし高評をかの八文舎をあそぶりのおどり形容初へから時々よきまで追々出板仕る心のとあいらんの程希上まつりは　板元敬白

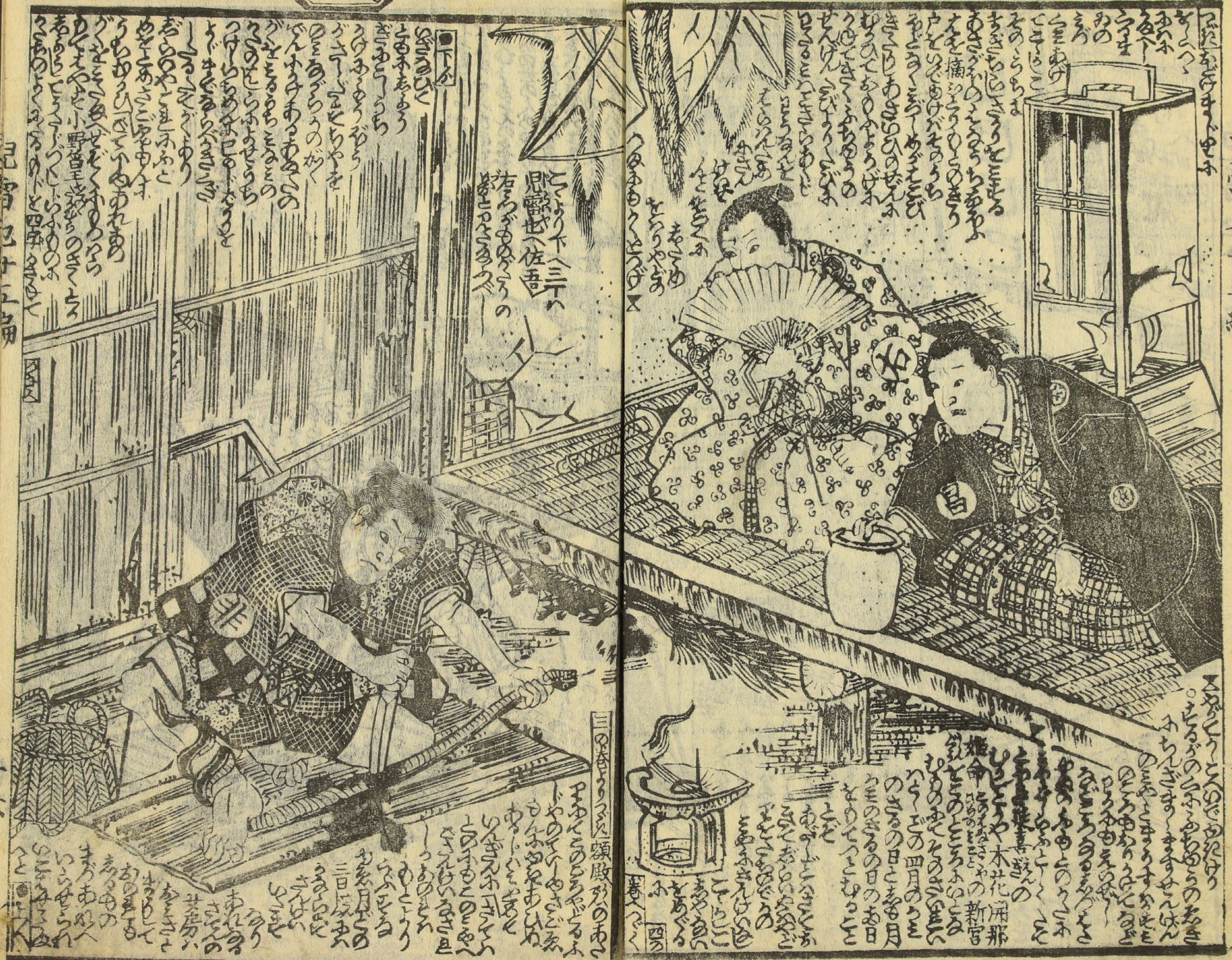
地本草紙問屋 芝神明前 和泉屋市兵衛版

種員作
國輝画

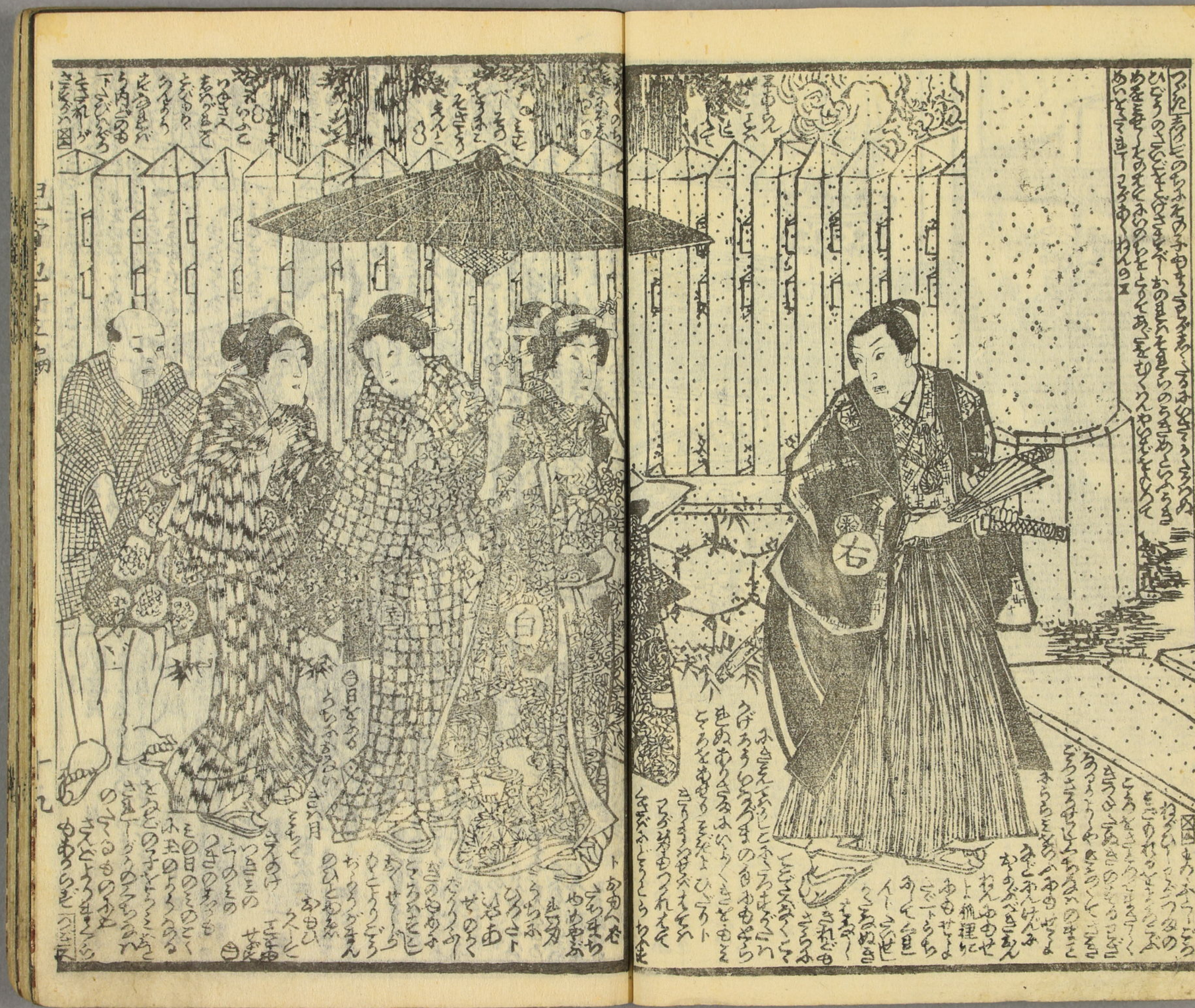


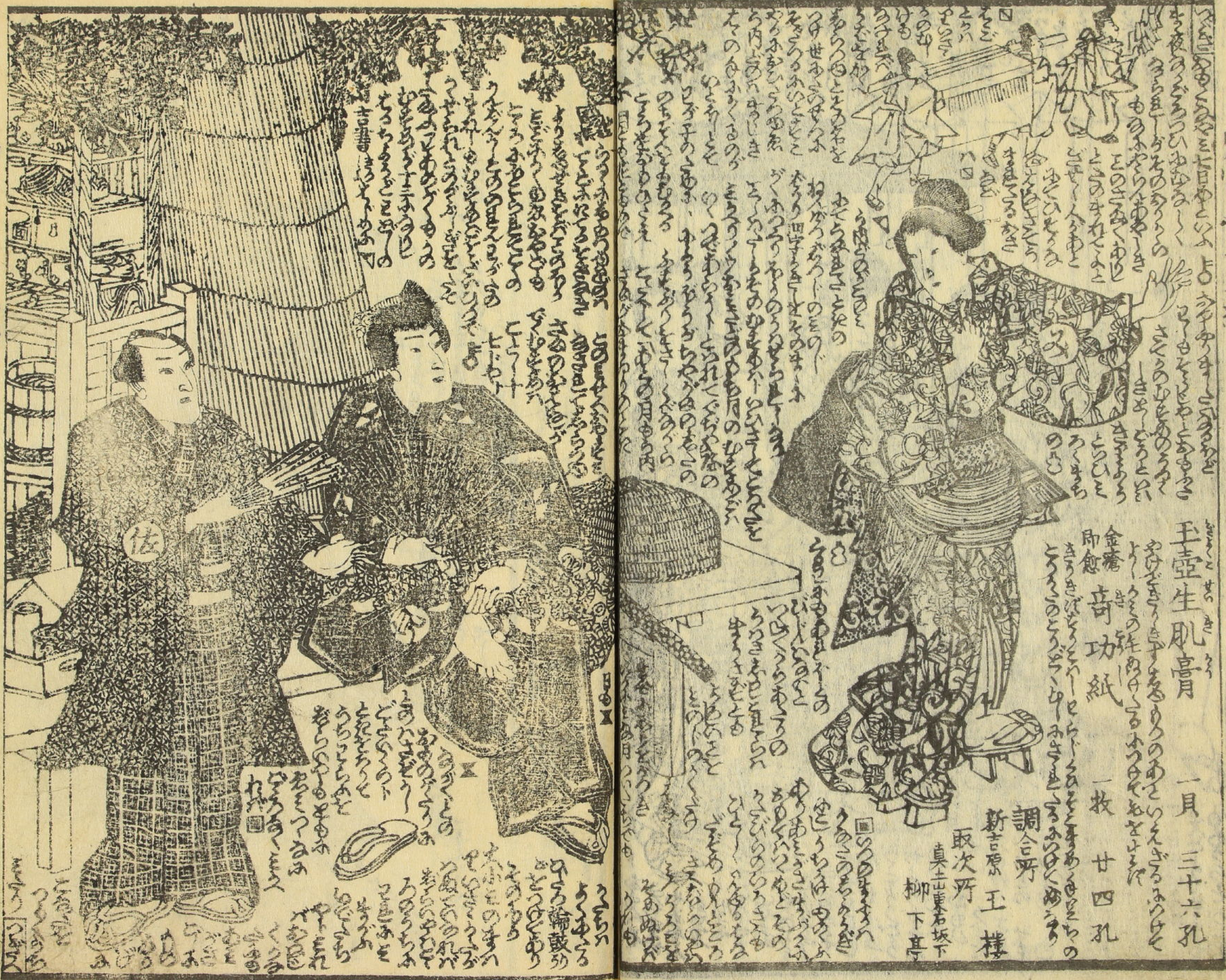
三の巻へつづく


奉納
巳巳巳巳
佐

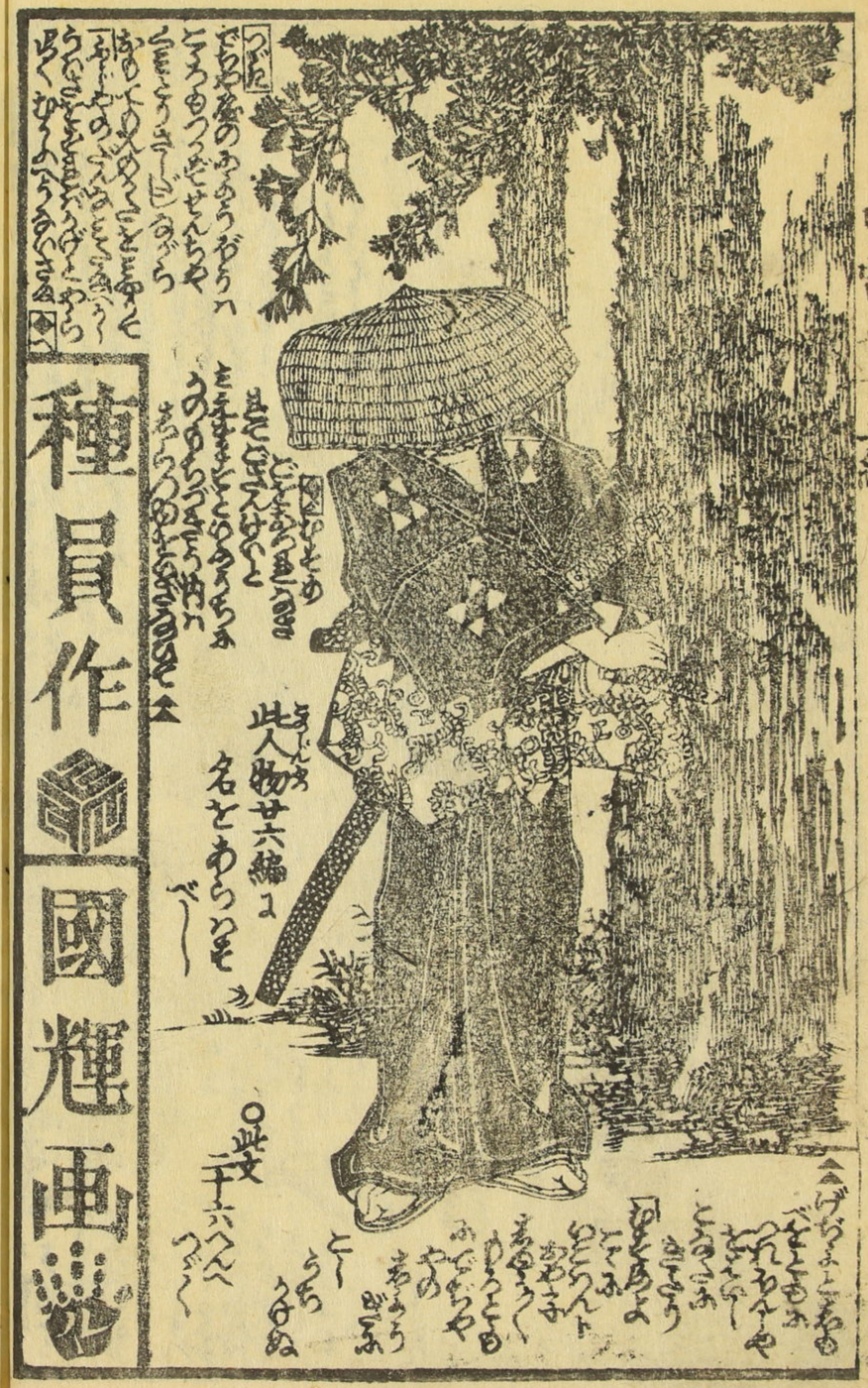


右


右
白



玉壺生肌膏 一貝 三十六孔
金瘡即愈 奇功紙 一枚 廿四孔
調合所 新吉原 玉樓
取次所 嶌士山東石坂下 柳下亭



兒雷也豪傑譚 廿六編 廿七編 廿八編 柳下亭種員作 一雄齋國輝畫

風俗浅間嶽 柳煙亭種久作 一壽齋國貞画 三編四編出板

黄金水大畫盃 烏永春水作 一雄齋國輝画 三編四編出板

小女郎蜘怨麻環 三編 馬琴作 大尾 國芳画

照天松操月鹿毛 三編 春風亭柳枝作 小栗十騎 四編 一雄齋國輝画 金沢八景

新編金瓶梅 十編 馬琴作 大尾 豊國画

地本錦繪問屋 芝神明前 甘泉堂和泉屋市兵衛板

兒雷也豪傑譚 第廿六編

上

志らぬひ譚 廿六編 上冊

柳下亭種員作
一雄齋國輝画

芝神明前
和泉屋市兵衛板

閑人倚柱笑雷公とハ韓致堯が詩なる神のすこしどよみてそらもくもりけるハ万葉集に載らる倭歌されバ漢上の王裒ハ孝の為に雷を恐ぞ我邦の少部栖軽ハ勅を蒙て雷を追ふ事跡も古る諾樂時代大和に雷丘あれバ越後に雷邑あり雷斧雷剱ハ奇石の名にして雷乾雷汁ハ飲食の内其味噌汁の肉摺鉢摺子木の漢名も亦雷盆雷槌と云ハめり抑是を崇てハ雷帝と唱へ雷公と申或ハ火雷神と号らりかく尊称さへなるものを嗚とえかぐもり様を法事と狂句者流ハ拆例の不礼口吟にまろみけんと巨細に挙らんハ頗雷譜といふなれめけども此書初編に兒雷也が雷獣を捕つし話を爰に復説ばきバ電光形の鑊を模し雷法異称を序とぞる事ひつ爾

嘉永乙卯正月

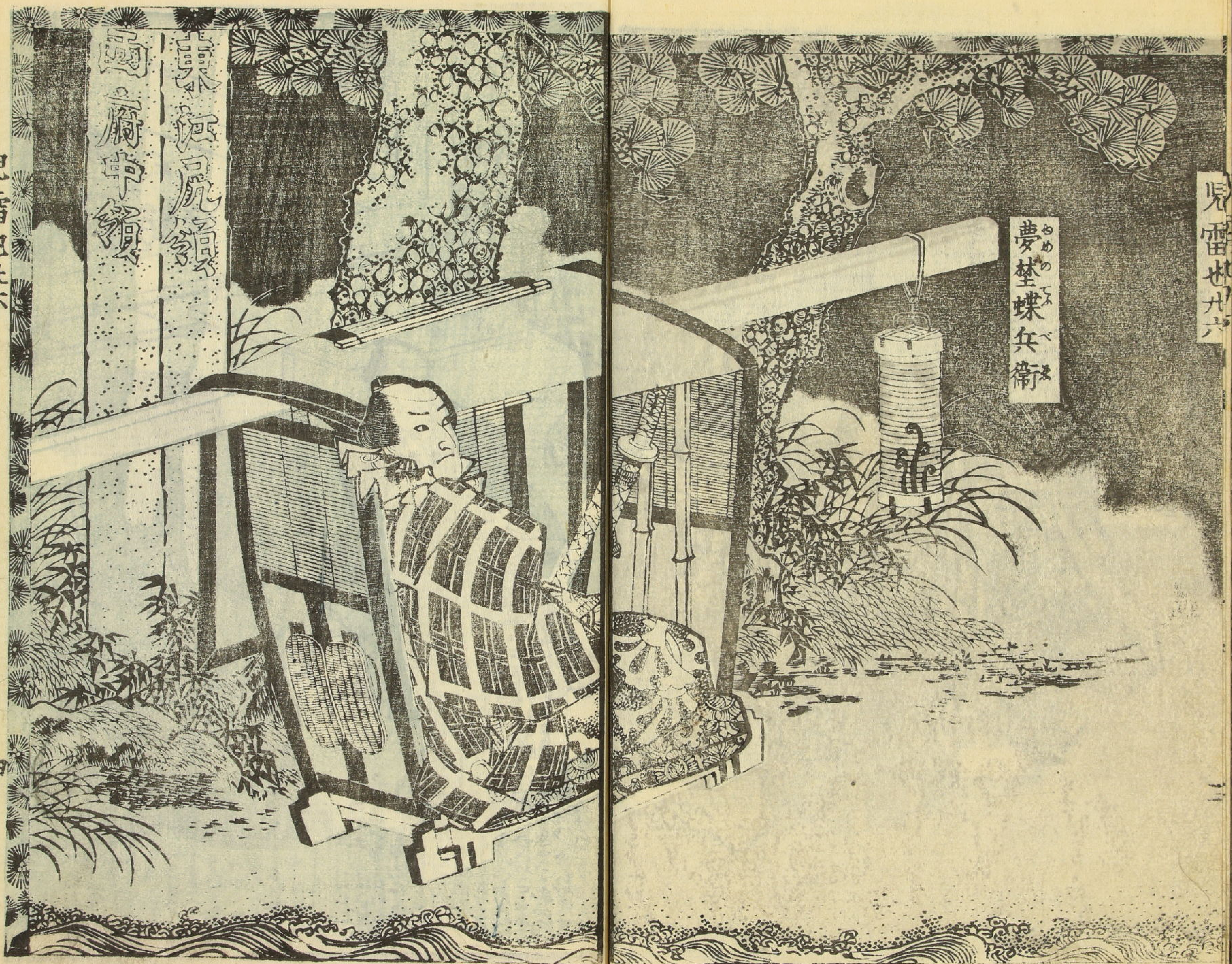
柳下亭種員識

鶴橋屋
喜之助

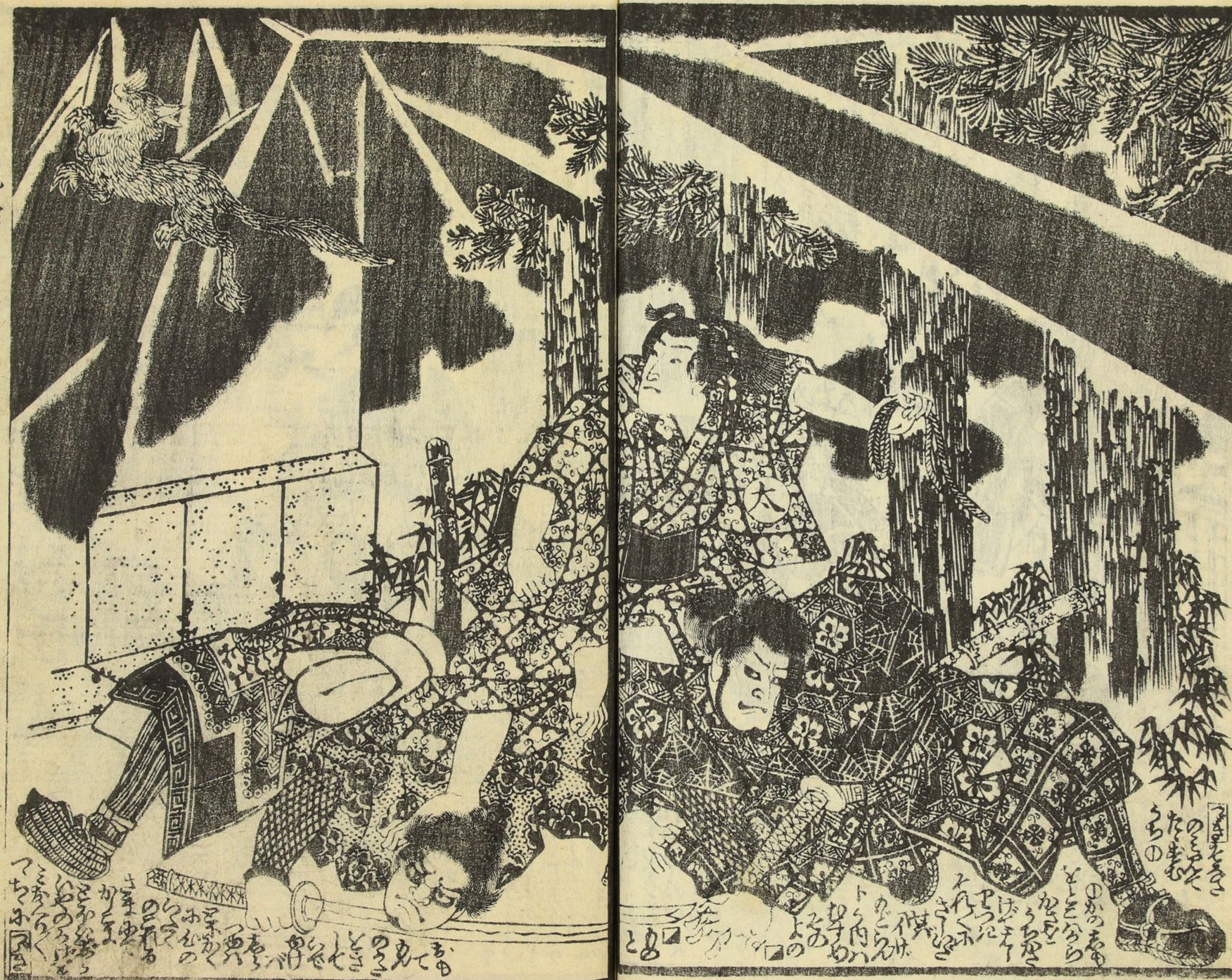
東海道
府中驛の庸醫
赤目昌齋

月影家の中老関屋

駿河國府中在
毛草邑の張使
非田治


東江尻領
西府中領
夢埜蝶兵衛（ゆめのちょうべゑ）
児雷也九六

佐
児
白



白

種員作

國輝画

禁方 玉壺生肌膏 一貝 卅六孔

金瘡即愈 奇功紙 一枚 廿四孔

製薬所 新吉原 玉楼

取次所 真乳山東五丁下 柳下亭

嘉永八乙卯新板目録

假名反古 一休草紙 柳下亭種員作 一雄齋國輝画 七編 八編 九編 出板

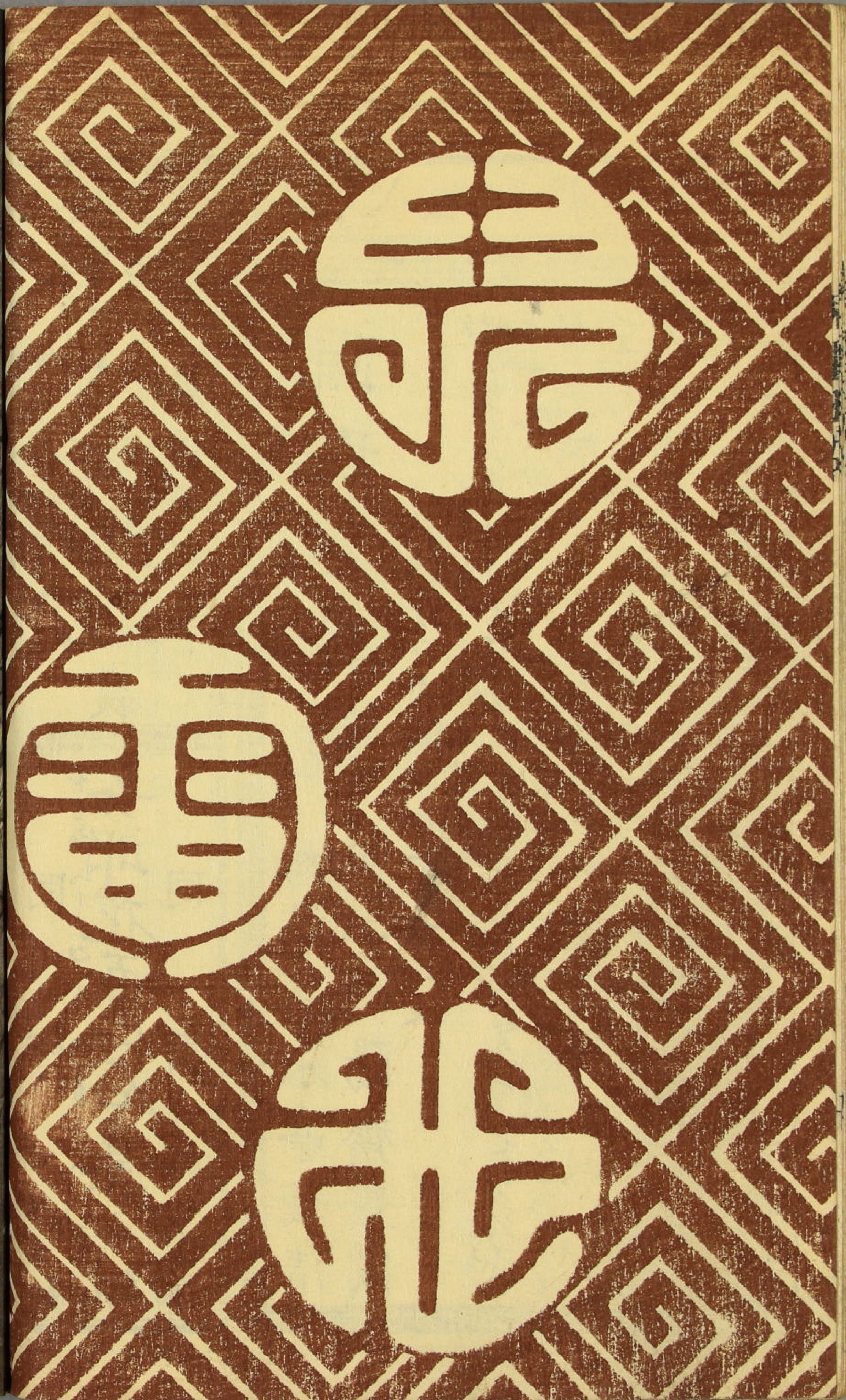
女郎花五色石臺 同作 同画 七編 八編 九編

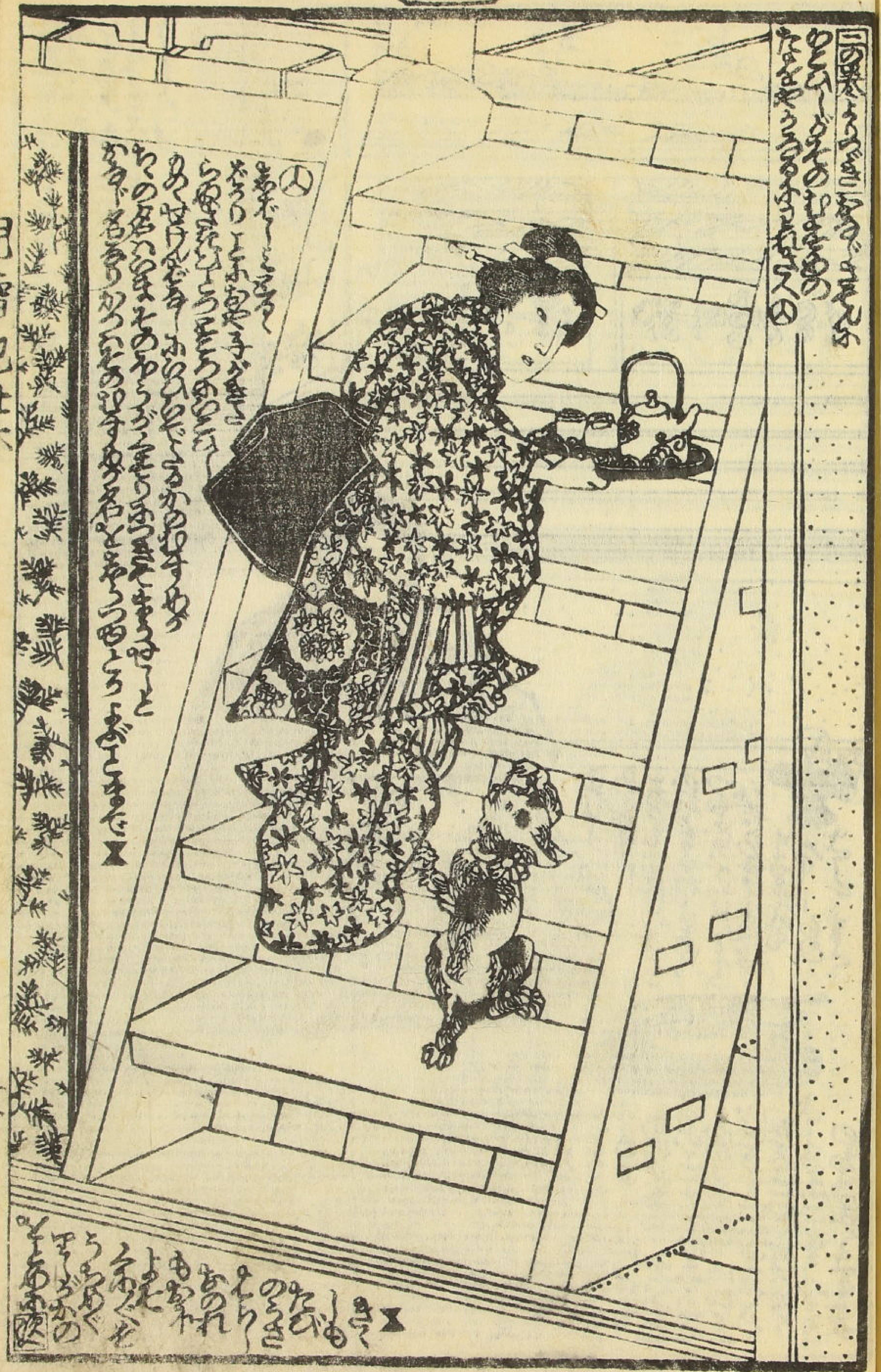
踊形容花競 編者 柳水亭種清 画工 一陽齋豊國 初編より十編まで當年出板

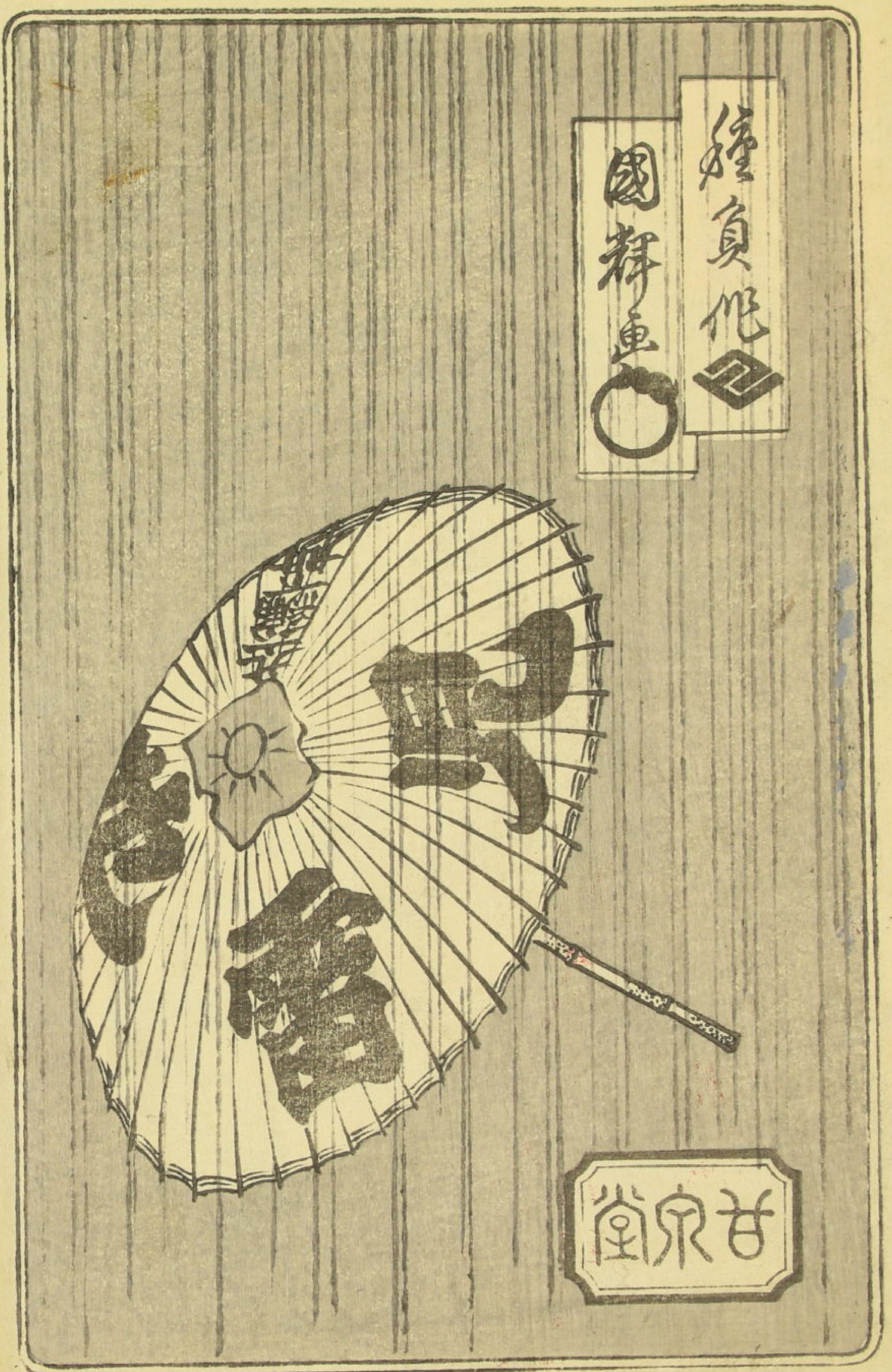
板元敬白

地本草紙問屋 芝神明前 和泉屋市兵衛版

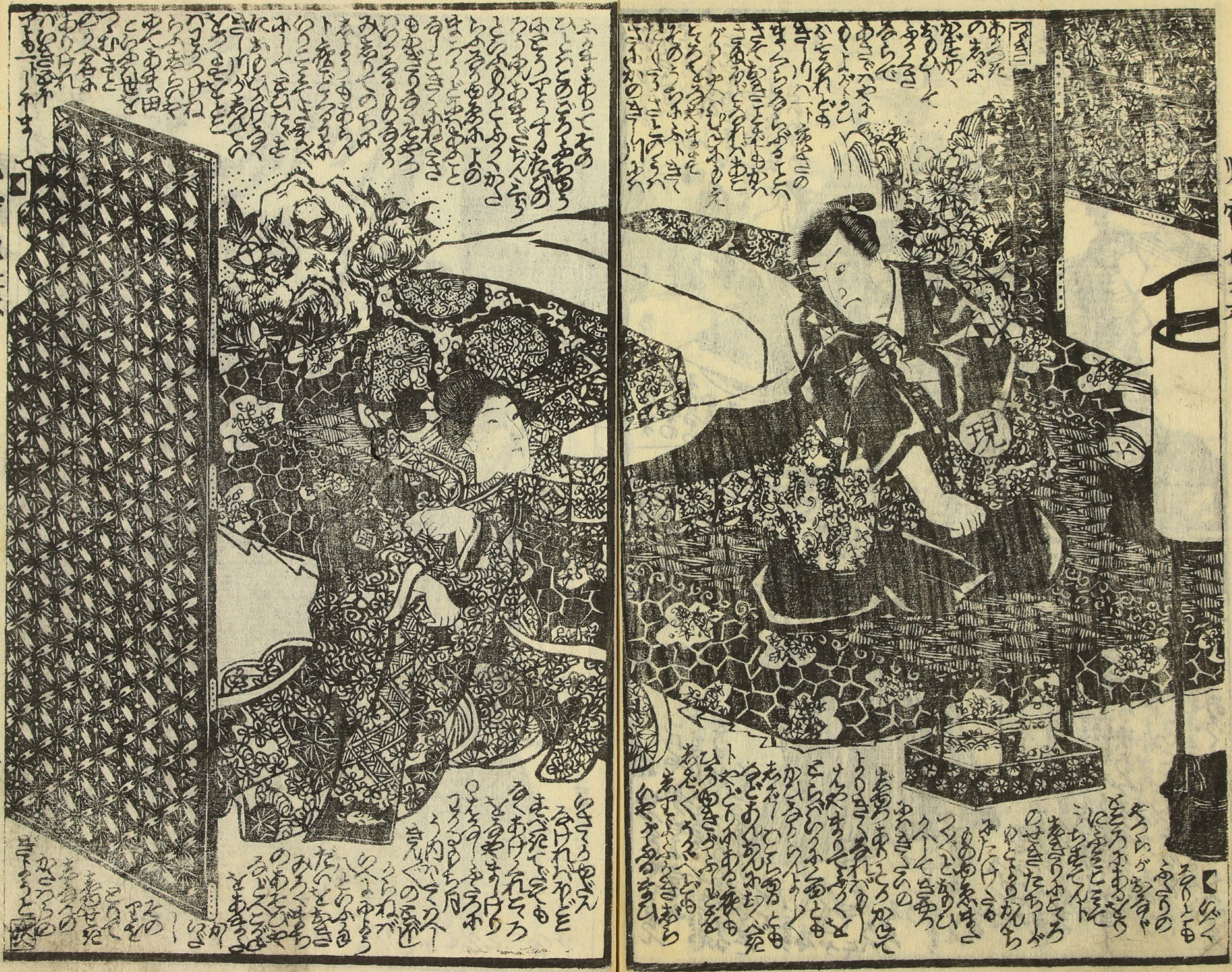
種員作
國輝畫
下





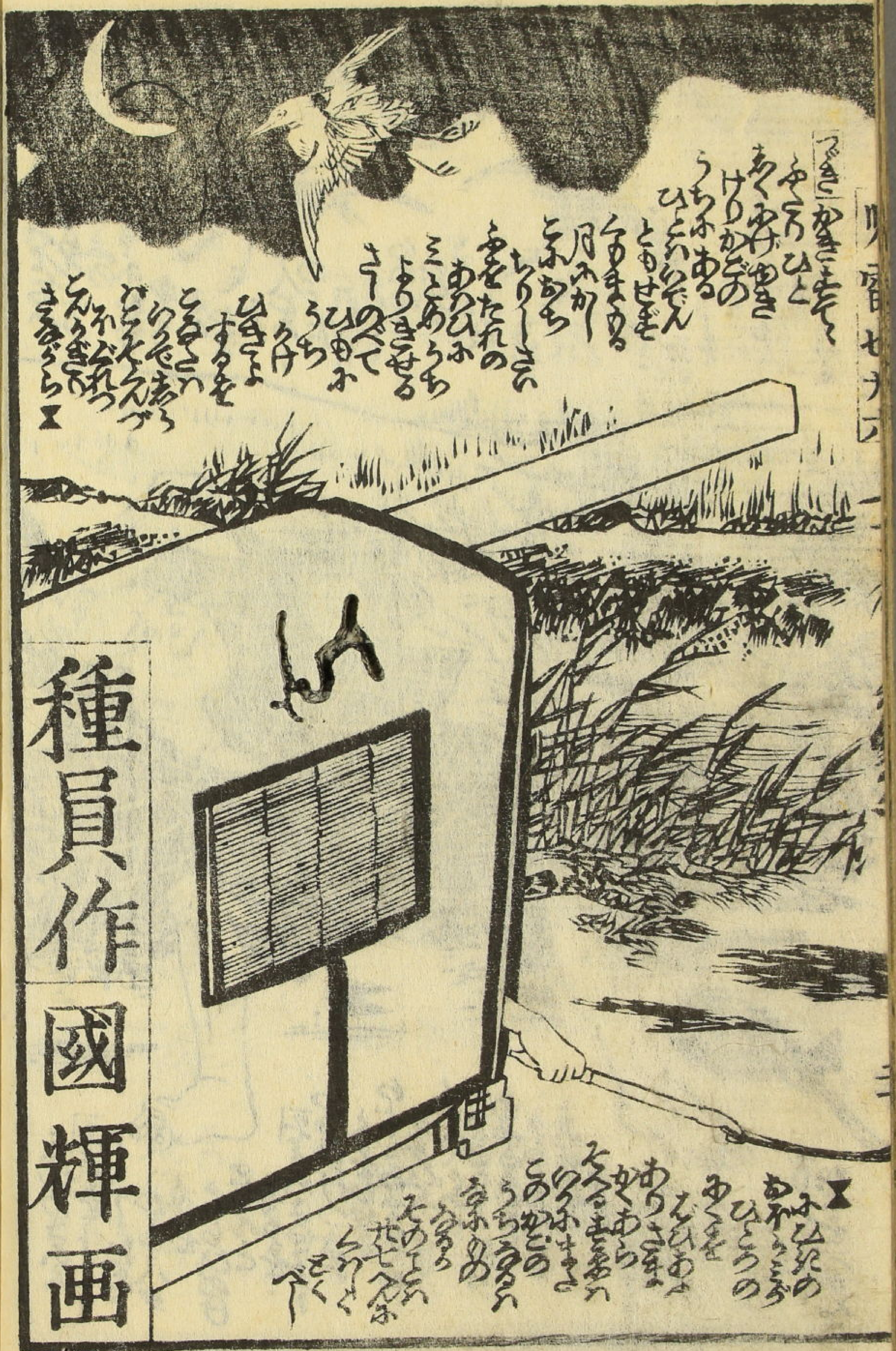

種員作
國芳画
甘泉堂

和泉屋



物屋
弥勒街の賤妓
金物屋の鉦川
望月の手代
鏡八

鉦
非



兒雷也豪傑譚　廿六編　廿七編　廿八編
柳下亭種員作
一雄齋國煇畫

風俗浅間嶽
柳煙亭種久作
一壽斎國貞画
三編四編出板

黄金水大盡盃
爲永春水作
一雄齋国輝画
三編四編出板

[illegible]郎蜘蛛怨麻環　三編大尾
馬琴作
國芳画

小栗十騎
照天松操月鹿毛　三編四編
金沢八景
春風亭柳枝作
一雄齋國輝画

新編金瓶梅　十編大尾
馬琴作
豊國画

地本錦繪問屋
芝神明前
甘泉堂和泉屋市兵衛板

甘泉文庫